

2023年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅠ	必修 2単位 講義	講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美)			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 コミュニケーションプログラム(1)担当:鎌水愛			
	3 クラス活動(1)			
	4 カウンセリング			
	5 クラス活動(2)			
	6 産学連携			
	7 セルフコーチング(1)			
	8 セルフコーチング(2)			
	9 クラス活動(3)			
	10 クラス活動(4)			
	11 クラス活動(5)			
	12 産学連携			
	13 クラス活動(6)			
	14 クラス活動(7)			
	15 クラス活動(8)			
	16 オリエンテーション			
	17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子			
	18 コミュニケーションプログラム(2)担当:鎌水愛			
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	20 就職にむけて(1)			
	21 産学連携			
	22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優			
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代			
	24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	25 コミュニケーションプログラム(3)担当:鎌水愛			
	26 クラス活動(9)			
	27 産学連携			
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美			
	29 就職にむけて(2)			
	30 クラス活動(10)			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			

参考文献				
担当教員の専門分野等	なかむらしんいちろう:□ 【認定絵本士養成講座担当講師】○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 講義		講 師	なかむらしんいちろう
授業概要	・社会人としての必要な基礎力を高める。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本土養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ)			
授業目標	・社会人としての必要な知識やスキルを修得し、実践の場で生かそうとする。 ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練) ・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世) ・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学) ・認定絵本土養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本土としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子)			
到達目標1	認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力と、社会人として必要な常識をもち卒業後の将来に向けた具体的な行動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 4/12 オリエンテーション			
	2 4/19 クラス活動(1)			
	3 4/26 就職に向けて(1)			
	4 5/10 認定絵本土養成講座科目(1)「絵本と出会う④」担当:関本練			
	5 5/17 オンライン クラス活動(2)			
	6 5/24 就職に向けて(2)			
	7 5/31 認定絵本土養成講座科目(2)「大人の心を豊かにする本」担当:細江幸 課題提出			
	8 6/7 認定絵本土養成講座科目(3)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学			
	9 6/14 就職に向けて(3)			
	10 6/21 就職に向けて(4)			
	11 6/28 オンライン クラス活動(3)			
	12 7/5 就職に向けて(5)			
	13 7/12 就職に向けて(6)			
	14 7/19 クラス活動(4)			
	15 7/26 クラス活動(5)			
	16 9/27 就職に向けて(7)			
	17 10/4 認定絵本土養成講座科目(4)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子			
	18 10/11 オンライン クラス活動(6)			
	19 10/18 就職に向けて(8)			
	20 10/25 就職に向けて(9)			
	21 11/1 就職に向けて(10)			
	22 11/8 クラス活動(7)			
	23 11/15 クラス活動(8)			
	24 11/22 オンライン クラス活動(9)			
	25 11/29 クラス活動(10)			
	26 12/6 就職に向けて(11)			
	27 12/13 就職に向けて(12)			
	28 12/20 就職に向けて(13)			
	29 1/10 クラス活動(11)			
	30 1/17 クラス活動(12)			
必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献				

担当教員の 専門分野等	なかむらしんいちろう:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者　○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者　○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者　○なかむらしんいちろう・鈴木八重子:講座責任者			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10　%
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	20　%
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	20　%

2024年度 講義要綱

科 目	保育と外国語 必修 2単位 講義	講 師	金藤 明美
授業概要	保育現場で使える幼児への語り掛け英語表現、そして幼児と一緒に楽しめる英語の歌や様々な活動、さらには初対面での基本的な英会話表現などを身に付けると同時に、机上学習では学べない表情やジェスチャーなどの非言語も意識した体験、練習を通してコミュニケーション力も高める。加えて英語にまつわる有益情報シェアをすることで、英語界への興味を深める。		
授業目標	1. 保育現場で使う基本的な英会話表現を繰り返し練習することで、表情豊かで自然な発話力を身に付ける。さらに幼児と一緒に歌える英語の歌や様々な活動を体験をしながら学び、それらを保育現場で生かす。 2. 初対面の英語表現を通して、コミュニケーションの大切さを楽しみながら学ぶ。		
到達目標1	・保育現場で使える必要最低限の幼児への語り掛ける英語表現を習得できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験【50点】
到達目標2	・初対面英会話の習得ができる ・自己紹介・Show and Tell・絵本の読み聞かせの体験ができる ・非言語によるコミュニケーションの体験ができる ・幼児と楽しめる英語の歌・活動の体験ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・初対面会話の口頭試験【30点】 ・発表体験：自己紹介(ミニブック提出含む) Show and Tell 絵本読み聞かせ 3つの小計【20点】 ※発表内容の出来栄により加点あり ※出席・授業態度は加点対象
授業方法	対面 ・全体練習・グループ練習・ペアワークなど、多様な形での学習 ・音源・(絵)カード・具体的な教具を使用した学習 オンライン ・ICTの活用		
授業計画	1 講義要綱 ①コミュニケーションKeys ②保育現場での英語教育について ③Hello Song/英語であいさつ ④自己紹介表現 ⑤幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉 2 ①バーバル・ノンバーバルコミュニケーション ②自己紹介表現(ミニブック作成) ③幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉・励ます言葉 ④絵本・英語の歌 3 ①幼保英語検定 ②フォニックスってな～に？ ③自己紹介表現練習 ④初対面英会話練習 ⑤幼児の為の英語表現練習ー公園編(単語レベル) 4 ①フォニックスの練習 ②自己紹介発表 ③幼児の為の英語表現練習ー公園編(文レベル) ④絵本・英語の歌 5 ①世界のLunch+世界の幼稚園 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(単語レベル) ④絵本・英語の歌 6 ①Halloweenのお話 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(文レベル) ④絵本・英語の歌 7 ①トイレのお話し ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(単語レベル) ④絵本・英語の歌 8 ①Multiple Intelligence(多重知能理論) ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(文レベル) ④絵本・英語の歌		

	9 ①保育関係(者)の英語名称と英語圏で働く保育士さんの声 ②Show and Tell ③初対面英会話練習 ④幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(単語レベル)			
	10 ①初対面英会話練習 口頭試験 ②Show and Tell 内容作成+練習(待ち時間) ③幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(文レベル)			
	11 ①Show and Tell 発表 ②子供幸福度ランキング ③絵本・英語の歌 ④総復習			
	12 ①筆記試験 ②絵本読み聞かせ練習 ③世界幸福度ランキング			
	13 ①Christmasのお話 ②絵本読み聞かせ大会(グループ内) ③感想			
	14 中国語 15 韓国語			
必須テキスト	English For Use in Nursery Schools			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年に渡り英語教室運営。北区外国語教育アドバイザー。アルクこども英語・小学校英語関係出版物執筆協力。読売KODOMO新聞「やってみよう！」共同監修。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

2023年度 講義要綱

科 目	必修 1単位 体育講義 講義		講 師	菊池 一英	
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。				
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。				
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(20点)指導案提出(10点)		
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点)チームで協力する姿勢を見せる(30点)		
授業方法	講義形式、グループワーク・トーキング(GW)、DVD視聴、実技体験				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 3 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 5 保育現場での体育的活動の実際－設定保育と自由保育－＜DVD視聴＞ 6 産学連携 7 リズムダンス遊び※実技 8 健康観の変遷 9 体育、幼児体育の歴史的変遷 10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導 11 健康とは何かを問い直す＜DVD視聴＞ 12 産学連携 13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 14 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す＜DVD視聴＞				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	20% %	

2024年度 講義要綱

科 目	体育実技		必修 1単位 講義	講 師	高見 美恵子
授業概要	乳幼児期・児童期に必要かつ効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。				
授業目標	1. コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する。 2. 共感するコーチングと関連する科学的根拠についての知識を習得する。 3. 共感するコーチングを活用しコーディネーション運動を実践する。 4. 立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する。				
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(15点)、実践案(15点)、実技試験・振り返りシート(20点)		
授業方法	実技、グループ学習、オンライン授業を含む				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持物等の説明、授業の進め方の確認)				
	2 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の重要性				
	3 コーディネーション運動【5つの能力】				
	4 コーディネーション運動【5つの形式】				
	5 コーディネーション運動【遊びの4要素】				
	6 実践技法【共感するコーチング理論】①				
	7 実践技法【共感するコーチング理論】②				
	8 コーディネーション運動の展開				
	9 筆記試験				
	10 実技試験チーム分け、実践案作成①				
	11 実践案作成②				
	12 実践案作成③と練習				
	13 実技試験と振り返り①				
	14 実技試験と振り返り②				
	15 実技試験と振り返り③				
必須テキスト	楽しみながら運動能力が身につく！ 幼児のためのコーディネーション運動 明治図書出版株式会社				
参考文献					
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。 保育園・地域学習センター・児童館・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座にてコーディネーション運動講師を担当。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	日本語		必修 1単位 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。				
授業目標	1.「話すこと」自分の考えや思いを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の伝えたいことを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。				
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・発表・レポート(40点)		
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、課題・レポート(20点)		
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 産学連携 7 乳幼児の言葉の発達と言語表現 8 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法) 10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法) 11 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(1) 12 産学連携 13 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業で適宜紹介。				
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、言葉・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2024年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作		必修 1単位 講義	講 師	酒井 澄
授業概要	情報に関する知識、情報機器操作の基礎知識を身につける。				
授業目標	情報社会の中でどう生きていくかを考えます。 Office (Word、PowerPoint、Excel) の基礎を身につけます。 その他、インターネットの光と影の部分を知り、自分がどうあるべきか考えます。 保育現場で活用できる映像の作り方、読み聞かせの基礎(絵本の読み方とは異なる)などを身につけます。				
到達目標1	Office (Word、PowerPoint、Excel) の基礎を身につけます。 書類、お知らせを作る。 プレゼンテーションをする。 表計算、グラフを作る。 これらの知識を身につけ、保育に活用できるようにする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		授業への取り組み度(50点) パソコン操作の苦手な人がいますが、これにより評価が下がることはありません。	
到達目標2	情報に関する知識、特にインターネットの知識を身につける。 読み聞かせのこつを知る。 保育映像記録の作り方の基礎知識を知る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		授業への取り組み度(10点) 講義内容に関する筆記試験(40点)	
授業方法	パソコン授業は学校のパソコンを使用していますが、自分のパソコン持ち込み可能です。Macもフォローします。 学校のパソコンはパソコン内に作ったデータを保存できません。 授業が次の週に続くとき、途中の工程を保存するために自分のUSBメモリなどを使い保存して下さい。				
授業計画	1 1回.一人ひとりのコンピュータに対する理解度を確認し、Wordの基礎から始めます。 2 2.3回.Word 3 2.3回.Word 4 4.5.6回.PowerPoint 5 4.5.6回.PowerPoint 6 4.5.6回.PowerPoint 7 7.8.9.10回.Excel 8 7.8.9.10回.Excel 9 7.8.9.10回.Excel 10 7.8.9.10回.Excel 11 11.12回.インターネットの光と影,1 12 11.12回.インターネットの光と影,1 13 13回.本の読み聞かせ(ナレーション技術) 14 14回.試験 15 15回.保育現場での、映像の活用や撮影記録の仕方。				
必須テキスト	ありません。				
参考文献	インターネットの光と影ver.6/北大路書房				
担当教員の専門分野等	1974年より映画テレビの制作会社勤務。職種:プロデューサー 担当作品:風の谷のナウシカなど。 2004年より映像制作会社を起業。職種:ディレクター&カメラマン。内容:保育や企業などの記録やプロモーションなど。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育原理		必修 2単位 講義	講 師	大河 芙美
授業概要	・事例を通して保育の知識や目的などを学習する。 ・子どもの姿を知り、子どもに寄り添う保育を考える。 ・グループ学習やゲームを通して、保育者にとって大切なコミュニケーション力を養う。				
授業目標	・保育の考え方、自己分析力、観察力を養い、自ら行動する積極性を身に付ける。 ・チームワーク、連携を大切にし、安定した人間関係が構築できるようになる。				
到達目標1	積極的に授業に参加し、社会人としての心得を身につける。また、コミュニケーションをとりながら自分が大切にしたい保育を探ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席率、30点 授業態度(積極性、コミュニケーション力など)30点		
到達目標2	保育士として使用、守るべき法令、規則が何でどこを確認すればよいかわかるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	テストによる評価、40点		
授業方法	コミュニケーションスキルを身に付けるためにグループワーク、ディスカッションゲーム、課題解決学習など、様々な学習形態を経験していく。				
授業計画	1 ガイダンス～授業の進め方、保育とは何か 保育の目的と意義～				
	2 保育の思想と歴史の理解				
	3 保育に関する法令、制度について				
	4 子どもの最善の利益とは				
	5 子ども・子育て支援新制度				
	6 産学連携				
	7 保育所保育指針とは				
	8 子どもの理解に基づく保育の過程				
	9 保育者の役割と責務				
	10 保育内容について				
	11 子どもを理解する～事例検討～				
	12 産学連携				
	13 子どもを理解する～事例検討～				
	14 保護者支援・対応の在り方				
	15 保育の現状と課題 まとめ				
必須テキスト	『保育所保育指針解説』平成30年3月、厚生労働省				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにて配布いたします。				
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	30% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	10% %	

2023年度 講義要綱

科 目	教育原理 講義		必修 2単位	講 師	難波 知希
授業概要	「教育」と呼ばれる人間の営みについて、歴史や思想、制度などに焦点を合わせながら幅広く学ぶことによって、受講者が「教育」について確かな思考を紡ぐことができるようになることを目指します。				
授業目標	・教育に関する様々な歴史・思想・制度・組織・実践・社会の諸領域との関わりなど幅広い知識を習得する。 ・習得した知識を現代の教育課題につなげて一人ひとりが考えを深められることを目指す。				
到達目標1	「教育」をめぐる諸問題について、他の受講者との議論を通して、自分なりに思考を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み状況(30点)		
到達目標2	「教育」をめぐる諸問題について、各回の講義内容を踏まえながら、客観的に論じることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回に課す小テストあるいは小レポート(70点)		
授業方法	講義を基本とします。適宜視聴覚教材も使用します。また、他の受講者と議論を交わす機会も設けます。				
授業計画	1 導入／教育学概論(1):教育学的思考の基礎 2 西洋教育史(1):子どもをめぐる史的展開 3 西洋教育史(2):包摂と排除の史的展開 4 日本教育史(1):近代教育の原風景 5 日本教育史(2):近代教育の成立と展開 6 産学連携 7 日本教育史(3):戦後新教育とそのゆくえ 8 教育思想(1):近代西洋の教育思想 9 教育思想(2):近代教育批判の水脈 10 教育制度論(1):教育基本法と学校教育法 11 教育制度論(2):学習指導要領の史的変遷 12 産学連携 13 現代教師論(1):教職の特徴と専門性 14 現代教師論(2):これからの学校改革 15 教育学概論(2)／総括:教育の理論と実践				
必須テキスト	特に指定しません。				
参考文献	授業中に適宜紹介します。				
担当教員の専門分野等	近代日本教育史。近代日本における学校と国家、社会との関係について研究を深めています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 2単位 講義		講 師	藤高 直之	
授業概要	現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況と、社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について理解するとともに、子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について学ぶ。				
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
到達目標1	現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況と、社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性				
	2 子ども家庭支援の目的と機能				
	3 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
	4 子どもの育ちの喜びの共有、子育てを自ら実践する力の向上に資する支援				
	5 保育士に求められる基本的態度、家庭の状況に応じた支援				
	6 産学連携				
	7 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力				
	8 子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	9 子育て支援施策・次世代育成新施策の推進				
	10 子ども家庭支援の内容と対象				
	11 保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
	12 産学連携				
	13 地域の子育て家庭への支援				
	14 テスト・振り返り				
	15 まとめ:要保護児童等及びその家庭に対する支援				
必須テキスト	「新基本保育シリーズ6 子ども家庭福祉 第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-8786-8				
参考文献	参考資料は授業時に紹介。				
担当教員の専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 2単位 講義	講 師	佐々木 和裕
授業概要	現代社会の特質と社会福祉の概念を学び、社会福祉を支える原理を考えてみる。				
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
到達目標1	福祉のこころを理解し、現代社会の状況を考えていくことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点)＋テスト(50点)		
到達目標2	将来の職場において、社会人、専門職として知識・技術を備え活躍する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	確認問題、アンケート(20点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連するプリントを活用していく。わかりやすい、ていねいな授業を目指す。				
授業計画	1 社会福祉とは何ぞや 憲法の13条・25条を考え人生 2 社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史 3 社会福祉の歴史 ヨーロッパにおける社会福祉の歴史 4 社会福祉法制と行財政 5 ソーシャルワーク概念 6 産学連携 7 最低生活保障と生活保護制度 8 児童家庭福祉の課題 9 児童家庭福祉の相談機関と施設 10 障害者総合支援法 障がい者の自立と福祉 11 高齢者の生活と福祉 12 産学連携 13 地域福祉の展開 14 地域福祉包括ケアシステム これからの福祉 15 試験				
必須テキスト	新 社会福祉とは何か(大久保秀子著、中央法規)				
参考文献	授業中に紹介				
担当教員の専門分野等	実務家教員 社会福祉士・精神保健福祉士として、現在 成年後見人として活動中。 専門学校を中心に教育歴35年				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	30 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論 必修 2単位 講義		講 師	前川 洋子	
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。				
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)		
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 地域の子育て家庭支援策のレポート提出と発表を行います。				
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性				
	2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下				
	3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
	4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成				
	5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援				
	6 6.支援における保育士の基本的態度				
	7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援				
	8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力				
	9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律				
	11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携				
	12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
	13 13.地域の子育て家庭への支援 レポート発表1				
	14 14.要保護児童等及びその家庭に対する支援 レポート発表2				
	15 15.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 総まとめ				
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年				
参考文献	谷田貝公昭 監修 和田上貴昭 他編著『子ども家庭支援論』一藝社 2020年				
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『こども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他出版				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I		必修 2単位 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史的変遷や現在の内容について学ぶ。				
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性				
	2 社会的養護の基本的な考え方と歴史				
	3 社会的養護に関わる法制度とその歴史				
	4 社会的養護の様々な形態				
	5 児童虐待の種類と現状				
	6 産学連携				
	7 家庭的養護一里親とはなにか?一				
	8 社会的養護施設の現状①一子どもたちの生活の姿一				
	9 社会的養護施設の現状②一支援の原理原則一				
	10 社会的養護施設の現状③一愛着障害と発達障害の理解一				
	11 社会的養護施設の現状④一地域連携一				
	12 産学連携				
	13 社会的養護施設の現状⑤一関係機関との連携一				
	14 テスト・振り返り				
	15 社会的養護施設の今後の展望				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内で紹介します。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	10% %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育者論		必修 2単位 講義	講 師	石原 成
授業概要	教科書に基づき、保育者としての力量形成やその在り方について理解し、保育者としての自分の姿を明確にする。				
授業目標	1. 保育者の役割と倫理的配慮について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。				
到達目標1	保育者(幼稚園教諭、保育士、保育教諭)の職務内容や専門性について理解し、保育の実践への構想が出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、授業内での課題(20点) (授業態度や出席状況等)		
到達目標2	保育者になるための自分の課題や今後のキャリアについて理解し、理想を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、まとめのレポート(20点) (授業態度や出席状況等)		
授業方法	教科書を基に作成されたパワーポイント資料を使う講義方式 講義内容に沿ったグループワークや話し合い、保育演習				
授業計画	1 オリエンテーション(自己紹介・シラバスの確認) 専門職としての保育者を知る(1) 保育者になるということ				
	2 専門職としての保育者を知る(2) 法令から見た保育者の異同と役割・責務				
	3 保育者の資質向上と研修を知る(1) 保育者に求められる専門性について(子ども理解・実践力)				
	4 保育者の資質向上と研修を知る(2) 保育者に求められる専門性について(人権について・特別な教育的配慮の理解)				
	5 保育者の資質向上と研修を知る(3) 保育者に求められる専門性について(得意分野の探究)				
	6 保育者の資質向上と研修を知る(4) 保育者に求められる専門性について(得意分野の発見と保育の実践の構想)				
	7 保育実践の場を学ぶ(1) 保育者の職務内容の整理と理解				
	8 保育実践の場を学ぶ(2) 環境構成と教材研究について				
	9 保育実践の場を学ぶ(3) 様々な保育形態とチーム保育				
	10 保育実践の場を学ぶ(4) 保育記録の意義と種類				
	11 保育実践の場を学ぶ(5) 保育記録の書き方と振り返りの視点について				
	12 保育者としての専門的成長(1) 専門的に成長する必要性				
	13 保育者としての専門的成長(2) 家庭や地域社会との連携、子育て支援				
	14 保育者としての専門的成長(3) カリキュラム・マネジメントの必要性				
	15 まとめ 今後の保育者に求められる在り方 質疑応答等				
必須テキスト	保育者論－保育者としての専門的成長を支える－ 光生館				
参考文献	授業内で紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。私立幼稚園勤務14年。 保育現場における、「教育課程」の立案と「保育記録」について、研究。				

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 講義		必修 2単位	講 師	前川 圭一郎
授業概要	1. 保育実践に関わる発達心理学の基礎知識を学ぶ。 2. 発達心理学や学習心理学の知見と保育実践を結びつけながら学ぶ。 3. 環境と個の相互作用の視点から、個々の発達について具体的に学ぶ。				
授業目標	教育・保育に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもの発達と学習の過程への理解を深めることを目的とする。 生涯発達の過程とともにその発達が人との相互的関わりを通してなされていくことを理解する。また、子どもの学習の過程に関する基礎的知識を身につけ、主体的な学習を支える基礎を身につける。				
到達目標1	重要な発達理論を理解し、各発達時期の特徴と課題を結び付けて説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(毎回の授業終了時に行うリアクションペーパー・小テストへの回答、20点)＋定期試験(30点) ＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。		
到達目標2	発達と学習の理論を踏まえて、「環境と個の相互作用」という視点から幼児の発達を説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(グループワーク中に行うワークへの参加、20点)＋発表レポート(30点)		
授業方法	授業は、遠隔の場合、ZOOMによる講義を実施し、グループワーク、課題解決学習等を実施する。 対面の場合、講義・演習形式で行う。具体的には、課題解決学習、ロールプレイ、等を実施する。				
授業計画	1 オリエンテーション:「心理学」・「発達」とは何か？ 2 身体機能の発達と運動機能の発達 3 乳幼児期の特徴と発達Ⅰ 4 乳幼児期の特徴と発達Ⅱ 5 幼児期の特徴と発達Ⅰ 6 産学連携 7 幼児期の特徴と発達Ⅱ 8 ことばとコミュニケーションの発達 9 情動・社会性の発達 10 発達の多様性と凸凹について 11 「愛着」その誤解と実際 12 産学連携 13 エビデンスに基づいた保育(ABC分析) 14 就学移行支援と学齢期の支援 15 テスト				
必須テキスト	毎回の授業時に資料を提供する。また、副読本については、授業において随時紹介する				
参考文献	『保育学用語辞典(保育領域)』秋田(2019)、中央法規				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必 修 2単位 講義		講 師	森脇 晋	
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。				
授業目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。				
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢(25点)、貢献度(25点)、発表(20点)		
到達目標2	自他の発表や講義から、自らが目指す支援者像や、「家庭支援」の視点を深めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	学期末まとめシート(30点)		
授業方法	グループワークや発表を伴う講義受講 ※発表に関しては、発表者の進捗により授業回の内容が前後することがある。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物・グループワークの進行等の説明)				
	2 グループワーク(各自の経験、実習目標に対する振り返り)				
	3 グループワーク(成功・失敗体験による振り返り)				
	4 グループワーク(バイステックの7原則による振り返り)				
	5 グループワーク(施設の役割・機能による振り返り)				
	6 グループワーク(報告書のまとめ)				
	7 グループワーク(相互添削)				
	8 グループワーク(発表資料の作成)				
	9 発表① 社会的養護施設(児童養護施設):子ども理解				
	10 発表② 社会的養護施設(乳児院/母子生活支援施設/児童相談所):子ども理解				
	11 発表③ 児童発達支援センター:多様な家庭とその理解				
	12 発表④ 障害児入所施設:子どもの生活・生育環境とその影響				
	13 発表⑤ 障害者入所施設:生涯発達／心の健康に関わる問題				
	14 発表⑥ 障害者通所施設:ライフコースと仕事・子育て				
	15 まとめ:施設実習を通した子ども家庭支援の心理学と自己覚知				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設の施設長として施設実習に携わってきた経験、保育養成施設の施設実習指導に関わってきた経験、保育所や施設実習先の実習担当者と連携したきた経験等をもとに、実務者教員として施設実習を通した子ども家庭支援の心理学的立場における自己覚知を支援する。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助		必修 1単位 講義	講 師	森脇 晋
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。				
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する				
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)		
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)		
授業方法	ワークシートを用いた講義				
授業計画	1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)				
	2 子どもの育ちを支える現場を知る				
	3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院				
	4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から				
	5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設				
	6 産学連携週				
	7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から				
	8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設				
	9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から				
	10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設				
	11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設				
	12 産学連携週				
	13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設／通所施設				
	14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から				
	15 学期末試験				
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの保健		必修 2単位 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。				
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
到達目標1	1. 子どもの解剖および生理的機能、心身の発達について理解する。 2. 社会環境や制度、保護者との係りなどを通して、子どもの健康の維持、増進についての理解を深める。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(80%)＋リアクションペーパー・小テスト(15%)＋提出物(5%)＝合計(100%)を総合して評価します。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生が考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 興味を持つように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。				
授業計画	1 心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 2 母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 胎児期～出生時の障害児を学ぶ。人体の恒常性について 3 身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 4 子どもの病気の特徴を学び、理解する。 子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 5 子どもの循環器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。 6 産学連携 7 呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。 8 消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。胃、腸、胃腸炎、下痢など。 9 泌尿器系、内分泌、生殖系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。腎臓、ホルモン、生殖器、排泄(排尿、排便)など。 10 感覚系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。目、鼻、口、耳、触覚、五感覚器など。 11 脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。脳、神経、原始反射など。 12 産学連携 13 その他の疾患について学ぶ。悪性腫瘍、障害など 14 各感染症の感染経路と予防接種について学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。				
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。				
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布します。				
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5% %	
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	5% %	
	他者と関わる力	5% %	専門的知識・技術	70% %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養		必修 2単位 講義	講 師	深川 卯子
授業概要	子どもの発育・発達と食生活の関連について栄養素などを通して学ぶ。 食育の基本とその内容・食育のための環境について学ぶ。 アレルギーなどの配慮の必要な子どもの食について学ぶ。				
授業目標	食品や栄養のことを理解し子どもや保護者に対して食育を行うための知識を習得する。 子どもに適切な食事がどのようなものか 献立などにどんな食品の組み合わせが適切かなどを通して理解し保育現場で対処できる				
到達目標1	子どもが食事をするときに適切に対応できる(楽しく食べる、バランスよく食べるなど) 離乳食・幼児食含む アレルギー食を理解し対応できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に対する筆記テスト 通常の食事40点 アレルギー対応20点 離乳食20点		
到達目標2	保護者や子どもに食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の計画書20点		
授業方法	教科書に沿った講義形式による。復習テストを実施して理解を深める。 手元に教科書をおいて授業を受けてください。				
授業計画	1 発育期の食生活と栄養について、食育の大切さなど				
	2 栄養素について 基本の働きと食事				
	3 栄養素について 炭水化物、脂質、たんぱく質 ミネラル ビタミン				
	4 食事摂取基準について 幼児に必要な量は				
	5 栄養素と食品の関係				
	6 産学連携				
	7 乳汁期の食生活				
	8 離乳期の食生活1				
	9 離乳期の食生活2				
	10 幼児期の食生活				
	11 食品群と献立 幼児の一日の食事(献立)例をもとに				
	12 産学連携				
	13 食育について				
	14 食物アレルギーについて				
	15 テスト				
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院				
参考文献					
担当教員の専門分野等	栄養の基礎(人体内における代謝など)。特に脂肪酸についての研究。調理と科学(小麦の特性について)。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 講義		講 師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針と同指針解説書を用いながら、保育の計画と評価について、どのような意義と理由によって学び、保育士として理解し習得すべきことを重点的に学んでいく。その際、保育理論に関わる部分も同時に履修する。			
授業目標	1. 保育の全体的な計画及び指導計画を立案作成する意義と理由を理解する。 2. 全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成及び評価の仕方について実際の作成事例を参照しながら、計画及び評価についてどのような点に留意しなければならないのか理解し、その方法を身に付ける。			
到達目標1	1. 毎回の授業において習得したことを文字等で表現できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、授業において学んだことに関するレポート(30点)	
到達目標2	2. 毎回の授業において習得した内容を質問や意見をとって深めながら保育の計画と評価の全体像をイメージできる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への貢献度(20点)、授業内容に関する質問や自己意見のレポート(30点)	
授業方法	1. 保育所保育指針と同解説書を用いながら、保育の計画と評価の意義と実践について座学形式で学ぶ。 2. 授業内で用いるテキストを学生が音読することで履修内容を確認する。			
授業計画	1 なぜ保育の計画と評価について学ぶのか。見守る保育の三省について。こども園について。 2 保育とはそもそも何をすることか。保育所保育の目標。子どもの最善の利益、他。 3 保育とはそもそも何をすることか。児童福祉法、子ども基本法、子どもの権利条約他。 4 人的環境、物的環境、空間的環境及び養護と教育の一体性について。 5 保育の方法ー子ども主体、子ども相互の関係づくり、他。 6 7 計画性のある保育を実践することの意義。子どもの発達。 8 指導計画のおおもととなる「全体的な計画」はどういう意味で作成されるのか。誰が作成するのか。 9 長期的な指導計画と短期的な指導計画を作成すること。3歳未満時には個別の指導計画を作成すること。 10 子どもの実際の姿に基づいて計画を作成する。保育士が一方的に与える計画とはならないような指導計画の作り方。 11 子どもの主体的な活動を促す保育士等による多様な援助を引き出すような指導計画の作り方。 12 13 自らの保育実践を振り返りながら、自己評価をすること。 14 職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための評価。 15 子どもたちを見守る保育とは。なぜ、見守る保育なのか？保育の計画と評価の観点から総まとめをする。			
必須テキスト	『保育所保育指針解説』(平成30年3月厚生労働省編)藤森平司著『見守る保育』(学研)			
参考文献	平成29年告示『保育所保育指針』公益社団法人全国私立保育連盟編『コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約』(エイデル研究所)			
担当教員の専門分野等	23年間認可保育園、認定こども園にて園長・副園長として現場勤務。保育者等の管理者として、子どもの権利条約、保育所保育指針に沿った保育現場の実現に携わる。現在、新宿せいが子ども園副園長、東京都福祉サービス評価推進機構評価者。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容総論		必修 1単位 講義	講 師	大河 芙美
授業概要	子どもを理解し、成長、発達に望ましい関わりができるよう、一人ひとりの育ちを把握し、柔軟な対応力を養う。				
授業目標	各年齢の発達過程を学び、保育内容や導入、その展開方法を学び理解する。				
到達目標1	自己理解を深め、目標に向かって主体的に取り組むとともに、他者との関わりを通して信頼関係を築くことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席率、40点 自主的な関わり、20点		
到達目標2	専門的知識や知見を習得し、柔軟に活用することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	他者との協力、20点 グループ制作、20点		
授業方法	グループワーク、ディスカッションなど、コミュニケーションを大切にした授業。				
授業計画	1 オリエンテーション				
	2 保育所保育指針を理解する①				
	3 保育所保育指針を理解する②				
	4 保育所保育指針を理解する③				
	5 産学連携を踏まえた、子どもとの関わり				
	6 産学連携				
	7 産学連携から得た学びのディスカッション				
	8 子どもの育ちを理解する①				
	9 子どもの育ちを理解する②				
	10 遊びを学ぶ				
	11 産学連携を踏まえた、子どもの遊び				
	12 産学連携				
	13 産学連携から得た学びのグループディスカッション				
	14 模擬保育を考える				
	15 模擬保育を実践する				
必須テキスト	必要時にプリントを配布				
参考文献	保育所保育指針				
担当教員の専門分野等	実務経験ありの教員による授業。幼稚園教諭、障害児保育、認可、認証保育園など様々な現場で勤務し、2020年まで株式会社の保育園で園長として勤務。現在、株式会社の本社で保育運営の担当部長として保育園運営、研修、監査、園長指導、運営指導に携わる。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・健康		必修 1単位 講義	講 師	松森 照幸
授業概要	健康な心と体を育て、自らの健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の基礎と5領域の中での健康の意味や、他の領域との関連しあいながら、子どもの成長につながっていることを理解する。また、子どもの発達過程、自立に必要な基本的生活習慣を学ぶ				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」)と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する				
到達目標1	・自分が常に保育の現場に立った時を想定し、健康とは何かを理解し実践力を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、提出物とミニテスト(20点)による総合評価		
到達目標2	・子どもの心身の発達について、知識を得、健康に関する理解を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、提出物とミニテスト(20点)による総合評価		
授業方法	保育所保育指針の健康のねらいと内容を理解し、健康とは何が大事かを考え学び、基本を身につける。				
授業計画	1 ガイダンス※授業の内容は進み具合によって変更する場合もあります。／子どもの健康について 2 領域「健康」のねらいとは、 3 領域「健康」の内容とは① 4 領域「健康」の内容とは② 5 領域「健康」の内容とは③／子どもの安全・健康に対する管理と教育 6 領域「健康」の内容とは④ 7 子どもの遊びとは 8 水遊び、砂遊び、遊びの中で育む生活習慣／他の領域との関係 9 子どもの心身の発達について① 10 子どもの心身の発達について② 11 子どもの安全・健康に対する管理と教育 12 基本的生活習慣① 13 基本的生活習慣② 14 基本的生活習慣③ 15 基本的生活習慣④				
必須テキスト	保育所保育指針				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布します。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育現場に携わる。 現在は幼稚園、保育園で幼児体育講師として勤務 ・ハッピー運動会楽しさいっぱい種目集、案、監修				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・人間関係		必修 1単位 講義	講 師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針及び同解説書を用い、5領域「人間関係」の保育の内容、ねらいについて保育現場の実践例を参照しながら、同領域に関して保育士として理解しておかなければならないことを重点的に習得する。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	保育所保育指針5領域「人間関係」の内容が理解できている。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容の理解を確かめるレポート(30点)		
到達目標2	おとなと子どもの関わりから子ども同士の関わりへ向かう保育の方法を理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業中のテキスト音読・質疑応答等による授業への貢献度(20点)、保育実践に関する理解度を確認できるレポート(30点)		
授業方法	毎回、パワーポイント資料とテキストを用いて講義。授業の最後に理解度チェックレポートの記述。				
授業計画	1 これから学ぶ保育内容「人間関係」の土台となる保育の目標、方法、環境について。 2 子どもの権利条約、児童福祉法、そして幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力他。 3 生命の保持と情緒の安定。乳児保育における「人間関係」理解の前提。 4 コミュニケーションの積み重ねで情緒的な絆が形成される。 5 様々な人たちとの関わり(人間関係)を子どもがもちたくなるような援助の仕方。 6 自立心を育て、人と関わる力を養う。 7 保育士等の仲立ちにより、他児と関わる。 8 温かく見守るとともに、応答的に関わる保育とは。 9 集団的な遊びや協働的な活動。 10 他の人々と親しみ、支え合って生活する。 11 友だちと積極的に関わりながら共感し合う。 12 ルールを守ると友だちとの遊びが楽しくなる。 13 「けんか」、「お手伝い保育」他。 14 「ごっこ遊び」による「人間関係」のつくり方。 15 見守られながら、子どもたちが他者と関わる力を身につける保育の仕方とは。				
必須テキスト	保育所保育指針解説(平成30年3月厚生労働省編)、藤森平司著「見守る保育」(学研)				
参考文献	全国私立保育連盟編「コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約」(エイデル研究所)				
担当教員の専門分野等	23年間、認可保育所、認定こども園にて園長、副園長として現場勤務。現在、保育所型認定こども園新宿せいが子ども園副園長。東京都福祉サービス第三者評価者、東京都保健福祉財団保育理論講師。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・環境		必修 1単位 講義	講 師	和田 満佐代
授業概要	乳幼児がもともと持っている「自ら育つ力」を軸として、乳幼児に必要な環境の条件、あり方、組み立て方を学ぶ				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	子どもの発達に合わせた環境構成に必要な知識を得て、子どもの姿の読み取りを行うことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み 20点 授業内での課題 30点		
到達目標2	子どもの場面に応じた発達にあった環境の提案をすることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	子どもの姿・場面の読み取り 25点 発達にあった環境の提案 25点 ※上記の2点は筆記試験		
授業方法	講義形式、グループワーク、演習				
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要、ねらい、見通し) 2 子どもを軸とした環境のとらえ方の意図を学ぶ 3 保育の環境の分類の種類・意図を知る 4 事例を用いて環境の分類を学ぶ 5 事例を用いてWEBを使った子どものとらえ方を学ぶ 6 子どもの発達に合わせた環境や玩具を学ぶ 7 保育環境に必要な条件を学ぶ 8 子どもの発達の保障、経験の積み重ねの重要性を学ぶ 9 自然や社会、伝承、文化の視点からの環境を学ぶ 10 事例 ポートフォリオ の検討 意見交換 11 事例 ドキュメンテーション の検討 意見交換 12 保育現場 時系列での人的環境の連携の重要性学び、組み立てを知る 13 保護者や地域、関係施設との環境の連携を学ぶ 14 子どもを取り巻く環境(時代の流れ) 15 試験				
必須テキスト	基本無し。こちらで資料準備。				
参考文献	保育所保育指針、あそびから学びが生まれる動的環境デザイン、イタリア・ピストイアの乳幼児教育、保育環境評価スケール				
担当教員の専門分野等	・実務経験のある教員による授業に該当 ・認可保育園 園長歴6年				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	必修 1単位 講義		講 師	吉田 裕子、竹島 孝昭
授業概要	吉田先生記入 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9コマ)			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。 ・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的な取り組みについて理解する。・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニクについて理解する。「おはなし会」のテクニクを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりの特性について理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎)			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]出席12点、態度20点、テスト18点(合計50点)	
授業方法				
授業計画	1 4/12(金)6限【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:竹島孝昭 2 4/19【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:竹島孝昭 3 4/26【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世 4 5/10 吉田先生①オリエンテーション 0歳児の言葉の発達と愛着形成 5 5/17 吉田先生②1.2歳児の言葉の発達、わらべうた 6 5/24 吉田先生③3.4歳児の言葉の発達、伝わる言葉1 7 5/31【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出 8 6/7【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:江花志乃 9 6/14【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 課題提出 10 6/21 吉田先生④5.6歳児の言葉の発達、伝わる言葉2 11 6/28 吉田先生⑤まとめと言葉遊び実践 12 7/5 吉田先生⑥まとめ補足とテスト 13 7/12【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出 14 7/18(木)5限【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか 15 7/26【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:竹島孝昭			
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				

担当教員の専門分野等	吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育・幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者　○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者　○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者　○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者　○井上まどか:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20　%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10　%	
	社会人としての基本	10　%	主体性 素直 思いやり	10　%	
	他者と関わる力	20　%	専門的知識・技術	30　%	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現		必修 1単位 講義	講 師	二木 秀幸
授業概要	子どもの発達を考えながら、保育に関わる表現活動全般を取り上げる。あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ体験する。そしてそれらを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を演習する。				
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」)と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	様々な表現の研究を軸に、あそびの中から表現する術を理解し、実施することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点)＋作品発表(20点)		
到達目標2	子どもの表現の育ちと保育者の役割について理解し、子どもの表現活動に対する指導方法を実施できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点)＋レポート(20点)		
授業方法	課題に対し個人やグループで作品づくり・発表・振り返りを繰り返す演習形式で進行します。また毎回、様々な歌を歌います。				
授業計画	1 オリエンテーション 授業内容とポイントの解説／“あそび”“表現”を考える 2 子どものうた(1) いろいろな歌をうたう・手あそび・歌あそび 3 子どものうた(2) 保育における歌を考える・子どもに歌を教えるには／まとめ 4 様々な素材を使った表現(1) 詩を素材としてあそぶ(グループワーク) 5 保育における“ごっこあそび・劇あそび・劇”を考える 6 様々な素材を使った表現(2) 詩を題材とした作品づくりの実践(グループワーク) 7 様々な素材を使った表現(3) 詩を題材とした創作作品の発表／まとめ 8 様々な素材を使った表現(4) 動画の鑑賞を通して 9 様々な素材を使った表現(5) 絵本を素材としてあそぶ(グループワーク) 10 様々な素材を使った表現(6) ボディー及びヴォイスパーカッション・体を使った表現 11 総合的な表現(1) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／素材の研究・準備 12 総合的な表現(2) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／ストーリー・演出の研究 13 総合的な表現(3) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／リハーサル 14 総合的な表現(4) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／発表会 15 振り返りと総まとめ／表現活動の指導方法				
必須テキスト	『6訂版 歌はともだち』教育芸術社				
参考文献	『ポケットいっぱいのうた』など音楽等の授業で使用している歌の本				
担当教員の専門分野等	専門分野:音楽(声楽・作曲)表現 研究テーマ:音楽表現・劇あそび・演劇表現。児童劇に役者として15年間携わっていました。 表現教育やワークショップ、舞台演出等も行っています。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者に関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅠ 必修 1単位 講義		講 師	真砂 雄一	
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関するレポート(30点)		
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(10点)、実践発表(30点)		
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 ＊社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。				
授業計画	1 ガイダンス・からだほぐし 2 身体表現 3 ボール遊び① 4 リズム遊び・鬼ごっこ 5 幼児期に必要な運動とは①(オンライン) 6 産学連携 7 ボール遊び② 8 運動遊び実践の計画立案作成／グループ決め 9 運動遊び実践① 10 運動遊び実践② 11 幼児期に必要な運動とは②(オンライン) 12 産学連携 13 運動遊び実践③ 14 運動遊び実践④ 15 身体表現遊びのまとめ、振り返り				
必須テキスト	特に必要なし				
参考文献	授業中に紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	上田 亜津子、金渕 洋子、木下 裕子、佐藤 季里
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(㉠ ㉢2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢リトミックを含む歌遊びの演習 11 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ㉠ピアノ等による個人レッスン／㉢個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (㉠ ㉢ 共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(㉠㉢ 共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	随時講師が準備する。				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	川原 千賀子
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	毎回参加し、学びを理解する。そして授業時間内に実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	真摯な授業参加(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 40点＋創意工夫10点		
到達目標2	<座学> 幼児の絵画を理解し説明できる。<実技> 造形技術を習得し、遊びを援助できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出、締切日厳守) 40点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 10点		
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)＊社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更 ★オンライン授業予定				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール:クレヨン等でのコイノボリ制作				
	2 こすり出し・フロッタージュ、校内凸凹探し:ちょうちょ				
	3 丸三角四角の組み合わせ:形の組み合わせ				
	4 デカルコマニー:デカルコマニーを用いた自由作品				
	5 <講義1>絵画の発達段階について ★:記入プリント				
	6 産学連携				
	7 はじき絵・にじみ絵①:はじき絵・にじみ絵を用いた自由作品				
	8 はじき絵・にじみ絵②:はじき絵・にじみ絵を用いた自由作品				
	9 紙コップ(または紙皿)工作:紙皿または紙コップを用いた工作作品(カエルか魚)				
	10 スタンプ:野菜などを用いたスタンプ作品				
	11 <講義2>幼児画の特徴 ★:記入プリント				
	12 産学連携				
	13 引っかき絵(クレヨン・クレパス)、色:ひっかき絵を使った作品(花火)				
	14 紙の加工、ハサミ:紙の飲み物、カタツムリ				
	15 自然物を用いた制作(雨天変更)またはお面製作				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の専門分野等	なかむら:絵本作家、イラストレーター 川原:児童教育全般、図画工作、美術 田中:イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅠ		必修 1単位 講義	講 師	なかむら しんいちろう、 乙川 智子
授業概要	【乙川】手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目3コマ) 【認定絵本土養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ) 【課題作成】(該当科目1コマ)				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。 【認定絵本土養成講座科目】 「認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎・田部井佳代) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎・いのうえちひろ・山田花菜) 以下、文字数に制限があり未記入。				
到達目標1	言葉(手話や絵本)に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など＝合計(50点)		
到達目標2	【認定絵本土養成講座科目】認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本土養成講座科目】に出席となります。		
授業方法	講義・実技				
授業計画	1 4/9 絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:中村 2 4/16 絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:いのうえ 3 4/23 絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代 4 5/7【乙川】聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習 5 5/21【乙川】保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ 6 5/28 さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:いのうえ 7 6/4 絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚けんじ 8 6/11 さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ 9 6/18 絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:いのうえ 10 6/25 オンライン 課題作成 担当:中村 11 7/2 絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:いのうえ 12 7/9 心に寄り添う絵本 担当:細江幸世 13 7/16(火)6限【乙川】聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習 14 7/18(木)7限 絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:田部井佳代 15 7/25(木)7限 さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:田部井佳代				
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト				
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本土科目】適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	【乙川】「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中【認定絵本土養成講座担当講師】○中村:絵本をめぐる活動に精通した者／絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうえちひろ・山田花菜:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けん:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者など ○千葉:科学絵本などに関する専門的な知識を有する者など ○田部井佳代:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、以下、文字数に制限があり未記入。				

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	0 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I		必修 2単位 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学ぶ。				
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1, 乳児保育の意義や目的、歴史、基本知識等を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)試験(30点)		
到達目標2	2, 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)試験(30点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 乳児保育とは 3 乳児保育の歴史について 4 乳児保育を支える法律について(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準) 5 乳児保育の基礎知識① 人間の赤ちゃんは無力なの？(ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性) 6 産学連携 7 乳児保育の基礎知識② 愛着形成(ボウルビイの愛着理論) 8 保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴 9 5～6か月児の発達の特徴、乳児の睡眠について 10 7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて 11 9～10か月児の発達の特徴 乳児の授乳について 12 産学連携 13 11～12か月児の発達の特徴 乳児の離乳食について 14 1歳～1歳6か月児の発達の特徴 1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴 15 試験・まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %	

2023年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。				
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)		
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 身支度、抱っこの仕方、おんぶの仕方について 3 乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について 4 乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について 5 乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実践について 6 産学連携 7 乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について 8 沐浴の実践について 9 授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について 10 授乳、離乳食の実践について 11 事例ワーク 12 産学連携 13 かみつき、ひっかけについて考える① 14 かみつき、ひっかけについて考える② 15 試験・まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」 志村聡子編著者 同文書院				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全 必修 1単位 講義		講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等			
到達目標1	1. 「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し、知識を深める。 2. 保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(80%)＋リアクションペーパー・演習態度(10%)＋提出物(10%)＝合計(100%)を総合して評価します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 救急・応急処置法は演習を中心に行う。			
授業計画	1 子どもの健康の維持と健康管理の必要性を考え、理解する。 2 ・子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 ・子どもが体調不良を起こしたときの観察点を学び、理解する。 3 子どもの体調不良時の対応方法を学び、理解する。 4 事例検討①・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 5 事例検討②・・・けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 産学連携 7 産学連携を通して、気付いた危険を振り返る。 8 実際に起こった犯罪事例を通して、原因や予防法を考え、学ぶ。保育者としての責任、定義を再確認する。 9 実際に起こった事故・事件の裁判事例を通して、保育態度が招く危険とそれに伴う罰則、裁判を知り、学ぶ。また保育者としての責任、定義を再確認する。 10 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 11 CPR法、AED装着法、窒息時の背部叩打法を学ぶ。実際に演習を行う。 12 産学連携 13 救急処置法について学び、救急処置法を演習する。 14 子どもの感染症の予防、アレルギー疾患を学び、理解する。 15 総まとめとして定期試験を行う。			
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規。			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントや資料を配布			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	5% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	5% %	専門的知識・技術	50% %

2024年度 講義要綱

科 目	障害児保育		必修 2単位 講義	講 師	前川 圭一郎
授業概要	近年、「しょうがい」についての考え方が大きく変化してきている。 「しょうがい」の考え方の背景には、「社会モデル」や「神経多様性」など、様々なキーワードが存在している。 また、そうした考えの基盤には、「基本的人権」が存在しており、当事者の人権をどのように尊重していくのかという視点が求められる。 本科目では、「しょうがい」とは何かということを軸に、保育現場における支援の在り方について考えていく授業となる。				
授業目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。				
到達目標1	・「しょうがい」とは何かを考え、個々の発達の状況に応じた保育を行うための必要な知識について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(授業終了時に実施するリアクションペーパー・小テスト、20点)＋定期試験(30点)＝合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。		
到達目標2	・環境と個の相互作用という観点から、「しょうがい」を考え、適切な支援について考え説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(授業内で実施するグループワークにおける参加、20点)、発表・レポート(30点)		
授業方法	対面、または、オンラインによる授業において、講義とグループワークを通して学びを深めていく。				
授業計画	1 ・本授業のガイダンス ・「しょうがい」についての歴史的編成について ・マジョリティとマイノリティについて ・正常と異常について 2 ・特権 ・隠れたカリキュラム ・マイクロアグレッションとは 3 ・自閉症スペクトラム(ASD)の理解 4 ・自閉症スペクトラム(ASD)の支援 5 ・注意欠如多動症(障害)ADHDの理解と支援 6 ・限局性学習障害の理解と支援 7 ・知的障害の理解と支援 ・ダウン症の理解と支援 ・出生前診断について 8 ・視覚障害の理解と支援 ・聴覚障害の理解と支援 9 ・肢体不自由の理解と支援 ・病弱について 10 ・環境と個の相互作用の視点から支援を考える 11 ・合理的配慮とは何か ・基礎的環境整備とは何か 12 ・応用行動分析学に基づく早期の支援について 13 ・課題分析について ・スモールステップに基づく支援について 14 ・インクルーシブが誤用される時 ・真のインクルーシブに向けて「環境との相互作用」の視点から 15 試験				
必須テキスト	授業でその都度配布を行う				
参考文献	保育学用語辞典(秋田ら2019)・特別支援教(猿渡,前川ほか)・				

担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2023年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 1単位 講義		講 師	鴫田 陽介	
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。				
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。				
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)		
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)		
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習 2 社会的養護施設の子どもたちへの理解 3 子どもの権利 4 生活支援と治療的支援 5 自立支援とアフターケア 6 産学連携 7 子どもと向き合うということ 8 社会的養護を必要とする親子への理解 9 愛着障害児への理解と支援方法 10 情報収集とアセスメント 11 自立支援計画の作成 12 産学連携 13 ケーススタディ 14 テスト・振り返り 15 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内において紹介。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2024年度 講義要綱

科 目	子育て支援		必修 1単位 講義	講 師	古川 佳子
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性・支援について、具体的に学んでいく。				
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。				
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの問題に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表10点 (2)レポート40点		
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討				
授業計画	1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。				
	2 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。				
	3 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通して自分を知る。				
	4 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援、支援のプロセス、エコマップの作成等について学ぶ。				
	5 コミュニケーションのロールプレイ体験と保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。				
	6 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。				
	7 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。				
	8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。				
	9 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。				
	10 虐待の実態と子どもに及ぼす影響、対応について学ぶ。				
	11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。				
	12 知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。				
	13 分離不安障害、緘黙、強迫障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ。				
	14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。				
	15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。				
必須テキスト	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規				
参考文献	授業中に適宜紹介、配布				
担当教員の専門分野等	専門教員の専門分野等:「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。台東区および東京都の公立学校(スクールカウンセラー)、企業向けカウンセリングサービス提供会社(カウンセラー)、杏林大学(教授)などで勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 1単位 講義	講 師	笠原 麻衣子
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	1 保育実習の概要 2 .実習の心得 個人票作成 3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる 4 実習日誌を書く意義と記入の仕方 5 実習日誌:エピソード記録の書き方について 6 産学連携 7 部分実習指導計画について 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題 9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方 10 手遊び・絵本の指導案作成 11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について 12 産学連携 13 絵本の読み聞かせの発表・ペープサートの発表 14 まとめと振り返り 15 試験 最終確認				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	20% %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 1単位 講義	講 師	森脇 晋
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 産学連携週 7 子どもの育ちの理解③:発達障害 8 関わりの技術③:療育場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 12 産学連携週 13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 14 実習日誌の理解と練習 15 施設実習への具体的準備:実習前／実習中／実習後にすること				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等					
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実践演習 必修 2単位 演習			講 師	なかむら しんいちろう
授業概要	本科目は、自身が興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。保育者は、子どもとその家庭に関する専門家として、保育士資格取得後も常に自己研鑽に努める姿勢が求められる。本科目は、それを見据え、保育に関する様々な物事に目を向け、幅広い視野を持って主体的に関わる姿勢を養うことを目的とする。				
授業目標	1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。				
到達目標1	①興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を通じ、保育に関する物事に主体的、意欲的に関わることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	最終スライド提出物(10点)＋発表(40点) 提出物は期限厳守。発表は内容も評価。及び発表への参加は評価の必須条件。		
到達目標2	②他者に伝える力を身に付けると同時に、他者の意見を取り入れながら問題解決する方法を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業参加、中間提出物も評価に加える。少人数のグループディスカッションへの参加。発表者に対するリアクションペーパーの提出など授業への意欲的な姿勢も評価する(50点)		
授業方法	これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導をまじえ、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。				
授業計画	1 オリエンテーション ～保育実践演習の進め方～				
	2 テーマの設定① ～関心を明確にする～				
	3 テーマの設定② ～テーマを決める・関心の深め方～				
	4 研究のスタイル ～調査・分析・考察の方法～				
	5 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成①				
	6 中間発表に向けての個別指導及びレジュメの作成②				
	7 中間報告及びディスカッション①				
	8 中間報告及びディスカッション②				
	9 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備①				
	10 発表に向けての課題の点検、個別指導、レジュメ作成及び発表準備②				
	11 発表①				
	12 発表②				
	13 発表③				
	14 発表④				
	15 発表⑤及びレジュメの取りまとめ、総評				
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する				
参考文献	特に指定なし 適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	専門分野:造形				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %	

2023年度 講義要綱

科 目	子どもと保育		選択必修 4単位 講義	講 師	笠原 麻衣子
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。				
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。				
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)		
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)		
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。				
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所の一日」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 「実習データDX」を実際に経験しながら、実習への知識を増やす 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「日誌の書き方③」初めての日誌を完成させ体験をする 15 「まとめ」前期授業の中で実習にむけて自分が成長した事を確認する				
必須テキスト	なし				
参考文献	なし				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	選択必修 2単位 講義		講 師	岡田 春佳
授業概要	「現場ですぐ活かせる授業」をモットーにカリキュラムを組んでいます。特に連絡帳の書き方レッスンは他の授業ではなかなか教わる事のない内容となっており毎年受講生から好評です。毎回保育の実践事例や保育実技を織り込みながら保育について学び、保育の専門性や保育のおもしろさについて深めます。連絡帳の書き方レッスンでは子どもを見る視点・記録の取り方について身に着ける事が出来ます。一人で考えるのではなく、授業内ではディスカッションの場を積極的に設けます。授業を通して保育の専門性の向上と保育者にとって必要なコミュニケーションスキルを身に着けます。また、手遊びや歌遊び、絵本の読み聞かせなどの実技も身に着ける事が出来ます。			
授業目標	本授業では保育について専門的な視点を養っていくとともに保育を展開していくための保育者としての資質と指導法を身につけることを目標とします。			
到達目標1	保育の専門性を理解し、子どもの主体的な遊びについて、保育者の関わりと子どもの姿について説明することが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容レポート(25%)授業への取り組み(グループ討議への貢献度・発表) (25%)	
到達目標2	保育事例についてのグループ討議を通して、自分の意見を伝える事が出来る。具体的な保育の場面を想定し、環境構成や保育士の関わりについて説明、実践することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容レポート(25%)授業への取り組み(グループ討議への貢献度・発表) (25%)	
授業方法	アイスブレイクタイムの導入で意見の出やすい授業を目指します。保育事例の検討ではグループディスカッションを中心に行います。保育実技(手遊び、絵本紹介)では実際に身体を動かし実技を身に着けます。			
授業計画	1 アイスブレイク ・自己紹介・授業の進め方について・保育とは ・講義テーマ「こどもの心を探る1」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 2 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「こどもの心を探る1」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 3 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「連絡帳の書き方」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 4 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもの心を探る2」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 5 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「絵本の読み聞かせのポイント」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 6 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び1～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 7 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び2～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 8 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び3～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 9 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～ていねいな保育～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか) 10 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～乳児保育～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ (3つのうちのいずれか)			

	11 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもが遊びたくなる環境構成」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)				
	12 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「主体的な行事の作り方のポイント」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)				
	13 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「アートが育む子どもの感性」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)				
	14 アイスブレイク ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもの遊びと記録の取り方」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)				
	15 まとめ 「保育の専門性とは、おもしろさとは？」				
必須テキスト	「まあせんせいの子どもが「育ち合う」あそび」				
参考文献					
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。公立保育園での12年間の保育士経験があり、より現場に近い内容で授業を構成しています。現在は学校法人菊地学園(理事長:菊地政隆)に在職中。主任・園長の経験もありますので、授業以外でも、キャリアアップや就職相談も可能です。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	30 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習		選択必修 1単位 講義	講 師	深川 卯子
授業概要	離乳食・幼児食を実際を作ることによって、固さ、大きさ、バランスの良い献立などを理解する 食育の実際について事例(計画作成)を行いながら学ぶ				
授業目標	子どもに対して年齢に応じた食べ物を実際に見たり触れたりすることを実際に行うことで理解し保育現場で対応できる 子どもや保護者に対して実際に食育が行えるようになる				
到達目標1	調乳ができる 子どもに応じた適切な離乳食や幼児食が判る	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実習のプリント提出(調乳・離乳食・幼児食)50点		
到達目標2	食育計画(子どもと作る軽食)を立てる アレルギー対応食を実際に作りいろんな事例を考えられ る 50点	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	計画書と実習 プリント提出30点		
授業方法	実習を通して離乳食や幼児食を実際に見て分かるようにプリントにそって授業 献立を考えたりアレルギー食の実際を経験出来るように実習を通して学ぶ プリントは提出すること(返却します)				
授業計画	1 授業の説明・進め方／1年時の復習				
	2 調乳実習／栄養計算の説明(プリント配布)				
	3 栄養計算(各自)質問タイムあり／離乳食の説明 実習について				
	4 離乳食実習(初期・中期・後期・完了期)				
	5 離乳食振り返り 幼児の献立(zoomでのグループワーク)				
	6 幼児食の献立／主菜に合わせて副菜を考える(グループで)				
	7 幼児食実習				
	8 幼児食実習振り返り アレルギー食について				
	9 アレルギー対応食実習1				
	10 アレルギー対応食実習2				
	11 食育の計画としての軽食(zoomでのグループワーク)				
	12 軽食作りの計画書完成				
	13 食育として 子どもと作る軽食実習				
	14 軽食実習の振り返り(各班の発表含む)				
	15 実習を通して学んだこと(振り返りとして)／各自発表も含めて まとめ プリントはこの日までに提出／前回までに提出の分はこの日に返却 予定				
必須テキスト	プリント配布による				
参考文献	1年時の教科書 食品成分表				
担当教員の 専門分野等					
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏		選択必修 2単位	講 師	上田 亜津子、佐藤 季里、豊嶋 祐壹、木下 裕子
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていく。15回の授業をピアノ等個人レッスン7回、クラス全体での歌遊びや合唱の授業8回(オンライン授業も含む)に設定し、ほぼ隔週に受講していき、保育実習に向けて実践力を養う。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンや自主練習への能動的な取り組み(20点) 実技試験発表(30点)		
到達目標2	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	15回の授業をピアノ個人レッスン7回、クラス全体での歌遊びや合唱の演習授業8回(オンライン授業も含む)に設定し、ほぼ隔週に受講していく。 ★13回目はピアノ等個人レッスンの実技試験発表、15回目は歌遊び合唱等の全体授業の実技試験発表となります。				
授業計画	1 全体授業。オリエンテーション。ピアノ個人レッスンのグループ分け、15回の配分、進度表の書き方等の確認。				
	2 個人レッスン(ピアノ等)★開始時はポータルで発表される指定のレッスン室へ集合してください。				
	3 全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習、実習への準備。				
	4 個人レッスン。				
	5 全体授業。				
	6 個人レッスン。				
	7 全体授業。				
	8 個人レッスン。				
	9 全体授業。				
	10 個人レッスン。				
	11 全体授業。				
	12 個人レッスン。実技試験リハーサル等。				
	13 個人レッスン実技試験発表。				
	14 全体授業。歌遊びや合唱の実技試験リハーサル等。				
	15 全体授業。実技試験発表(小グループまたは全体で)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どものための音楽表現技術』萌文書林				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育教材研究		選択必修 2単位 講義	講 師	なかむら しんいちろう
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。				
授業目標	子どもの創作活動を迫体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。				
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)		授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)*社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更				
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、コウモリ、クロネコの制作				
	2 お面づくり:画用紙等				
	3 絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等(オンライン)				
	4 衣装づくり:ポリ袋(進行状況によっては他の授業をなくし2週間行う)				
	5 素材研究:アルミホイル:粘土のように自由な形を作る				
	6 素材研究:ボンド:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整える				
	7 レッジョの座学:講義:笑い顔と泣き顔				
	8 レッジョの実践①:屋外活動:自然物で絵画制作				
	9 感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等(オンライン)				
	10 フィンガーペイントによる絵画制作				
	11 レッジョの実践②:光を用いた作品制作				
	12 紙の加工:はらぺこあおむし				
	13 イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵				
	14 虫ピンを使った動く工作またはリサイクル廃材を用いた制作				
	15 お花紙を使った絵画製作または手作り双六遊び				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	加藤ふじこ:絵本作家、イラストレーター なかむらしんいちろう:絵本作家、イラストレーター				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 講義		選 択 必 修 1単位	講 師	鈴木 直樹
授業概要	幼児の成長にとって必要不可欠な身体表現遊びについて理論と実践を往還させながら深く学びます。授業では、身体活動を通して楽しく運動遊びの有用性を学ぶと共に、それを価値づける科学的根拠について学びます。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	遊びの重要性について理解した上で、遊びを通して保育を展開していくための内容と方法について具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業中のやりとりにおける回答(20点)、テスト及びリフレクションペーパー(30点)		
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、環境構成を適切に行なった上で、模擬保育において状況と場面に応じた指導を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬授業での実際の指導(20点)、指導案の作成(30点)		
授業方法	授業は、オンラインで行う講義・演習と対面の実技の学習を有機的に関連させたアクティブラーニング・スタイルの授業です。				
授業計画	1 幼児の身体表現遊びについて概観する。				
	2 幼児期の身体発達の特徴について身体活動の内容に注目して概説する。				
	3 幼児期の身体発達の特徴について体力に注目して概説する。				
	4 幼児期の運動遊びと学力の関係について概説する。				
	5 幼児期の運動遊びとWell-beingの関係について概説する。				
	6 かけっこ遊びを体験しながら活動の工夫について考える。				
	7 マット遊びを体験しながら活動の工夫について考える。				
	8 遊びのデザインについて時間の工夫に注目して考える。				
	9 遊びのデザインについて仲間と空間の工夫に注目して考える。				
	10 模擬保育を行い、より良い指導を考える。				
	11 模擬保育を行い、より良い指導を考える。				
	12 模擬保育を行い、より良い指導を考える。				
	13 模擬保育を行い、より良い指導を考える。				
	14 模擬保育を行い、より良い指導を考える。				
	15 模擬保育を振り返り、まとめ、より良い保育を行う支援について考える。				
必須テキスト	特になし				
参考文献	鈴木直樹・成家篤史・石塚諭・阿部隆行(2017)子どもの未来を創造する体育の「主体的・対話的で深い学び」. 創文企画				
担当教員の専門分野等	博士(教育学) 専門は体育科教育学。特に、学習評価論を専門とし、国際比較研究などに取り組んでいる。 現在大学にて体育科教育学を担当する准教授として勤務中。小学校での勤務経験が9年あり。幼児体育に関する講演など多数。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講 師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A ②2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／②簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リトミックを含む歌遊びの演習 11 ①ピアノ等による個人レッスン／②互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A ②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A②共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 講義		選 択 必 修 1 単 位	講 師	廣 田 篤 憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法をより高めるように習得する。				
授業目標	1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。 3. 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。				
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、制作した作品への取り組み(30点)		
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品の制作の指導方法の理解(30点)、造形環境の準備内容の把握(20点)		
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。				
授業計画	1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、幼児の造形教育のねらいと方法(教材、素材の活用などについて) ・教科書:P.112~P.119 2 画用紙とクレヨン・クレパスを使って、虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) ・教科書:P.58 3 紙コップを使ってタコを作る(紙コップを色画用紙で巻く方法) ・教科書:P.80 4 カップ麺の容器を使ってカメを作る ・教科書:P.94 5 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書:P.140 6 ペットボトルを使って輪投げのピンを作り、新聞紙で輪投げの輪を制作する。 ・教科書:P.182 7 パチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書:P.56 8 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する ・教科書:P.147 9 発想を形にする:自由なイメージでの制作 ・教科書:P.136 10 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのおもちゃを制作する:その1. 和紙ハガキを使ってマーブリング制作 ・教科書:P.117、P.126 11 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのおもちゃを制作する:その2. マーブリングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書:P.177 12 色画用紙を使ってアニマルフェイスのペーパークラフト ・教科書:P.144、P.145 13 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その1. ・教科書:P.142、P.145 14 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その2. ・教科書:P.142、P.145 15 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その3. ・教科書:P.142、P.145				
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著				

参考文献					
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アーマチュアの制作、アートディレクションなど				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講 師	川北 亮司、本多 ちかこ、横山 雅代
授業概要	[本多]紙芝居の特性を知り、演じ方と制作を学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	[本多] 紙芝居を作り演じることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	[本多] 紙芝居の制作(30点)、発表(20点)		
到達目標2	[本多] 紙芝居の特性を知り、演じることによって、子どもと楽しくコミュニケーションをとることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[本多] 授業への出席状況(30点) 授業への取り組み度(20点)		
授業方法	[本多]紙芝居制作と実演のワークショップ及び講義 ※授業計画の順番はクラスにより異なります。 別紙オムニバス科目授業日程をご確認ください。				
授業計画	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6 [本多]1 さまざまな紙芝居を見よう				
	7 [本多]2 紙芝居を作ってみよう				
	8 [本多]3 実演のポイントを知ろう				
	9 [本多]4 紙芝居の歴史と特性を知ろう				
	10 [本多]5 舞台を使って演じてみよう				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
必須テキスト					
参考文献					
担当教員の専門分野等	本多:紙芝居の実演、作家				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習指導Ⅱ 選択必修 1単位 講義		講 師	竹島 孝昭	
授業概要	・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む ・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う				
授業目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
到達目標1	・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。 ・授業内の課題を期日内にきちんと提出することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、提出物(20点)		
到達目標2	・責任実習、部分実習のために保育教材の製作および指導案の立案が出来る。 ・模擬保育の実践発表を行うことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表・模擬保育(40点)、テスト(20点)		
授業方法	・講義、演習(グループワーク)および実技・発表 ・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習				
授業計画	1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明)				
	2 主活動の指導計画				
	3 実習課題と個人票の下書き				
	4 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい)				
	5 模擬保育に向けて②(教材準備)				
	6 保育現場職員とのワークショップ				
	7 模擬保育に向けて③(導入の意味)				
	8 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開)				
	9 試験と模擬保育について確認				
	10 模擬保育実践1				
	11 試験「責任実習指導計画」				
	12 模擬保育実践2				
	13 模擬保育実践3				
	14 わくわくタイムの準備と確認事項				
	15 わくわくタイム(グループワーク)				
必須テキスト	保育実習指導Ⅰaで使用した「フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画」				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	